

手賀沼自然観察会 2024年3月24日(日) 参加8名 晴れ(気温 約16°C)

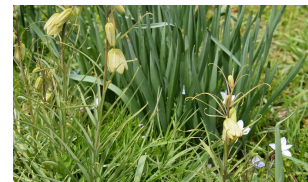
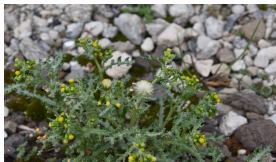
今年で29回目を迎えた関東フォーラムの春一番の恒例イベント、手賀沼観察会が3月24日に無事行われました。昨年は予想外の雨、そして一昨年は突風に見舞われての催行だったのですが、今年は晴天に恵まれ幸いでした。例年どおり地元我孫子チームの面々のガイドで、センス・オブ・ワンダー全開のひと時を過ごすことができました。

今年には出発前に参加者全員にフィールド・ビンゴカードが手渡されました。葉書サイズの用紙に縦横4つ合計16のマスがあり、そこには「とりのす、きのみ、たべあと、いいにおい、カラスのこえ、みずのおと、どうぶつのおとしもの、チョウ、きいろいはな」といった項目が並んでいました。いずれかを発見するたびにマス目にチェックを入れるようにと説明を受け、あたりをキョロキョロ見回しながら、六感をフルに働かせたワクワクドキドキの出発となりました。

東我孫子駅を背に手賀沼を目指して歩き始めて間もなくの左手に、少し盛り上がった小さな丘のようなところがありました。そこにはスギやカシの実が落ちていましたので、さっそくビンゴカードの木の実にマークを入れじっくりと木の実の観察をしました。落ちていたのはシラカシとスギの実でした。また、変哲もないこんもりしたその場所が実は前方後円墳で、大和王権とのつながりが推定できるほどの遺跡だと教えられて驚きました。



この前方後円墳の脇の道を道なりに進んで手賀沼を目指すのですが、道端の草花について目を取られます。幸い、「歩く図鑑」ともいべき小川代表がご一緒だったので、「名も知らぬ」だった草花の名が次々と明らかになりました。



道沿いに素敵な住宅のお庭が眺められ、ビンゴカードの黄色い花や白い花のマスに続々とチェックが入り、途中でカラスの鳴き声も聞こえてまたチェックと、ワクワクドキドキであっという間に手賀沼湖畔に辿り着きました。「柳青める」には少し早い季節でしたが、湖畔には土筆も顔を出していて、「春はほらほらもうすぐそこまで〜♪」の歌さながらのうらかな光景が広がっていました。湖面には白鳥(黒鳥?)も漂っていて、ツグミやオオジュリンやキジも道々で姿を見せてくれました。

手賀沼遊歩道をしばらく歩いた見晴らしのよい公園で一休みした後、一路、滝前不動尊へ。竹藪を背に立つ古色蒼然たるお堂の周囲は整備が行き届き、ショウブやアヤメが育つ水辺には田ゼリが生えていて、摘ませていただきました。中には既に頭を出している気の早いタケノコもありました。滝前不動で記念撮影の後、出発点の東我孫子駅に向かい、駅前の喫茶店で一休みしたり、お店の脇に設置された無人野菜販売機で朝採り野菜を買ったりして、幸せな春の一日を終わりました。なお、ビンゴカードは滝前不動で完成していた人には、ご褒美にキャンディーが配られました。また、ビンゴカードの隅に「本日のスペシャル」という枠がありましたが、私のスペシャルはムネアカカマキリ(外来種)の卵を初めて見たことと、在来種との微妙な違いを知ったことでした。(西野)